

日本語で育てる？ ママパパの母語で育てる？

こどものことは どうする？



我が子が初めてことばを発したとき、親としての喜びを感じますね。

これからたくさんことばを覚えていく我が子と、

どんな会話をするのだろうと思いつくだけで、わくわくします。

外国人ママパパが日本で子育てをすると、

多くの子どもは複数の言語に触れる環境で育ちます。

さあ、我が子のために、ことばについて考えてみましょう！



NPO法人みらい

みらいでは、0才から6才のお子さんとママパパのためのサロン“みらいjr.”を開催しています。
詳しい情報は Facebook NPO法人みらい(fb.me/mirai.chiryu) で検索！



① ことばってなに？

ことばはコミュニケーションにかかせないものです。

今日の出来事や、自分の気持ち、相手の気持ちなどをことばで表すと、お互いがより理解できて、結びつきが深まります。

ことばの役割はコミュニケーションをとることだけではありません。「考える」「想像する」「理解する」こうした力を育むためにもことばが必要です。豊かな語彙力や表現力は、その子の人生をより豊かなものにしてくれます。

豊かなことばの基盤となるのが、**母語**です。お子さんには、たくさんのことばに出会ってほしいですね。



子どもは、場面にびびったとあった声がけをされて、ことばを覚えていきます。



② 母語ってなに？

母語には、いろいろな定義があります。

ここでは母語を「**子どもが初めて出会う言語**」という意味で使います。

多くの子どもにとっては、ママやパパの言語が母語になります。

言語の習得では、母語が大切な役割をします。母語の発達がいっかりしていることが2番目の言語の習得の成功の鍵です。母語が中途半端だと、その次のことばも中途半端になる傾向があります。

母語をしっかり育てていくことが大切です。



③ 子どものために、家庭でも日本語を 使ったほうがいい？

ぜひ、ママパパの得意な言語で育ててください。
無理をして日本語で育てる必要はありません。

子どもがたくさんの語彙に出会い、考える力、想像する力を育んでいくためには、ママパパが自信のある言語で話しかけるのが一番です。ママやパパの母語でことばの基礎づくりがきちんとできている子どもは、保育園や学校に入っても、日本語と母語をリンクさせながら、新しいことをどんどん学んでいきます。

親の得意な言語で育てると、子どもが大きくなっても、悩みや学校での出来事など、親子でいろいろな話ができ、コミュニケーションが保たれます。また、子どもは2つの言語が分かるバイリンガルになることができます。バイリンガルは多角的な考え方のできる有能な人になると言われています。

一方、日本語に自信がないママパパが無理をして日本語で育てた場合、ことばの基礎づくりがきちんとできません。保育園や学校に入っても、日本語が思うように伸びず、ダブルリミテッドになってしまうことがあります。また、子どもが成長するにつれて、親子で十分に話し合えることがなくなってしまうこともあります。子どもが間違ったことをしたときに、どうして間違っているのかことばで伝えられない、また、どうせ分かってもらえないからと子どもが親に相談をしなくなるという事例が実際に起こっています。

※ダブルリミテッドってなに？

日本語も母語もどちらも年齢相応の言語能力に達していない状態のことです。学校での学習にもついていけなくなる場合があります。



我が子の「これなに?」「どうして?」に、
自信をもって答えられる言語がいいですよ。





日本の保育園や学校でどんどん日本語を覚えていく我が子

子どものことばをどう育てればいい？

- 1 家では母語、外では日本語というように、二つの言語をきちんと使い分ける環境をつくりましょう。
日本語と母語を混ぜてしまうと、子どもは必ず楽な方の言語を使い、母語で話しかけても、日本語で答えたりします。母語で話しかけたら、母語で答えるという家庭のきまりをつくるのが大切です。
- 2 親子でのコミュニケーションを大切にしましょう。
テレビやスマホばかりに子どものお守をさせないで、子どもが自分で考えるような問いかけや遊びが大切です。
- 3 絵本の読み聞かせをしましょう。
絵本はことばを育てるのにとっても有効です。絵本は、たくさんのごとばに出会わせてくれます。また、絵本の世界に入って、想像をふくらませたり、登場人物の気持ちになりきったりすることは、豊かな感受性、考える力、集中力も育めます。
- 4 母国の相父母や親戚と話をする、同じ母語を使うお友達との集まりに出かけるなどとして、母語に触れる機会を作りましょう。

※家庭で努力をしても、母語が弱くなっていくこともあります。子どもが保育園や学校で言いたいことを日本語で十分言えないし、母語でもただどきどきという状態のときは、子どもの気持ちをよく理解して、辛抱強く子どもの言いたいことを聞いてあげましょう。

～国際結婚で夫婦の得意な言語が違うママパパへ～
夫婦の母語が異なる場合、ママとは○○語、パパとは△△語で話すというように、家庭の中できまりをつくるという方法もあります。それぞれの家庭にあった一番よい「ことばの育て方」を考えてみましょう。



先輩ママの声

1

子どもの母語を守るために、家庭の中だけではなく、教会に行ったりして、子どもがポルトガル語を使う機会を増やしました。

母 茶屋連マリさん(ブラジル出身)
娘 ユカリさん(日本生まれ)
ユカリさんは、現在/バイリンガル/の中学校教師として活躍中です。



5

うちの子の日本語だいじょうぶ？
日本の学校でうまくやっていけるかしら？

日本の学校で勉強する子どものために



子どもはことばを覚えるのがはやい？

毎日の生活や遊びで使うことばと、学習で使うことばはいろいろな面
でちがいます。

生活で使うことばは、遊びや生活の中で自然に習得していきます。一般
的に1年から2年で習得できるといわれています。学習で使うことばの習
得には、個人差はありますが、5年から7年かかるといわれています。

日常会話ができるようになってからも、家庭で長期的に見守る必要が
あります。



親が子どものためにできること

- ① 保育園や学校での出来事を子どもからよくききましょう。
- ② 親が日本語が分からなくても、子どもの学習に関心を持続けましょう。大いにプラスになります。
- ③ 母語が大切だからと日本語を否定するのではなく、母語も日本語も大切なことばであることを伝え、親も日本語や日本の文化に関心をもっているという姿勢をみせましょう。
- ④ ことばの他にも、いろいろな遊びや友達との関わりなどの経験は、学校生活でとても役に立ちます。入学前にいろいろな経験をさせましょう。



先輩ママの声
2

子どもが宿題ができたか一緒に確認をするようにしていました。どうしても分らないときは、(母の)友達に手伝ってもらいました。

母 古屋ルジアさん(ブラジル出身)
娘 マリアネさん(1才8ヶ月の時に来日)
マリアネさんは、大学在学中フランスへ留学。
大学院を卒業。現在は大手商社に勤務しています。

母語を大切にすると、親は日本語が必要ない？

家庭では母語を大切にしてください。しかし、一歩外へ
出ればそこは日本社会。日本で子育てをするには、親が
日本語が分かるにこしたことはありません。保育園や
学校での先生とのコミュニケーションでも、日本語が
分かる方がいいと思う場面はたくさんあるでしょう。
また、日本の教育制度についても、情報収集をして、知
らなくて損をすることがないようにしましょう。





もっと知りたい! Q&A



Q1

産まれたときから複数の言語で話しかけると、子どもは混乱しませんか？

子どもは家では母語、外では日本語、またはママとは○○語、パパとは△△語と、分かりやすく分けられれば混乱しません。また、子どもにも言語の使い分けをさせたらというって、知能の発達が遅れるとか性格が曲がるということはありません。むしろモノリンガルに比べて話し相手に対する配慮ができるとか、ことばで相手を判断しなくなるといふプラス面が実証されています。

Q2

親の母語で育てています。子どもが保育園でなかなか日本語を話しません。家庭でも日本語を使ったほうがいいですか？

お子さんは周りの日本語をじーっと聞いて学んでいるのかもしれない。沈黙期といって、言語を習得する過程でことばを話さないことがあります。家庭の言語を日本語に切り替えるのではなく、保育園の様子を母語でじっくり聞いて、少し長い目で見守る姿勢も大切です。

Q3

家庭では母語、保育園では日本語と分けていますが、ほかの子に比べて、うちの子はことばの発達が遅いようです。大丈夫でしょうか？

二言語または複数の言語で育っている子どもは、一つの言語で育っている子どもに比べてことばの発達が少し遅く感じることがあるようです。心配でしたら、保健センターなどの機関に相談してみよう。

Q4

日本の保育園に預けていて、母語を育てる十分な時間がありません。家庭で気を付けたほうがいいことはありますか？

保育園に長時間預けられたりして母語に接触する時間が急激に減ってしまうと、母語の発達がいまぐれなくなることがあります。しかし、家庭では母語で話しかけ、母語を通して年齢相応のリズム遊び、歌、絵本など豊かな経験ができるように心がければ、十分母語を伸ばすことができます。

Q5

私は日本人ではありませんが、日本語で子育てしています。間違っているのでしょうか？

日本人ではなくても、日系社会で育った方、また親が日本語と母語のバイリンガルだという方もいます。大切なのは親が自信をもってコミュニケーションがとれる言語で子育てをすることです。日本人ではないから、日本語で子育てをしない方がいいということとは決してありません。

～最後に～

家庭によって環境も事情も様々です。お子さんの家庭の言語を決めるのは、ママパパです。それぞれの家庭でよく話し合ってくださいね。



このリーフレットは愛知県「子育て外国人の日本語習得モデル事業」を受託して、NPO法人みらいが作成しました。
リーフレット作成にあたっては以下の資料を参考にしました。
中島和子 (2000年) 『言葉と教育』海外子女教育振興財団
松本一子 (2016年12月) NPO法人みらい「外国にルーツをもつ子どものことを考える」配布資料
村上京子 (2017年1月20日) NPO法人みらい「新米ママパパのための子どものことばを考える」配布資料
愛知県 (2009年) 「プレイスクール実施マニュアル」